

B-5 「デザインの思考」の必然性と素晴らしさ 頭で考えるばかりでなく、「身体(からだ)」で考えてみよう

株式会社GKデザイン総研広島
代表取締役社長 山田 晃三

【セミナーの狙い】

かつて人類は道具と言語を獲得して、自然から切り離され、ヒトになった。道具は科学技術の進歩によって高度化し、多くの製品・装置・建築・都市を築くに至った。言語はヒトのコミュニケーション能力を極度に高め、人と人、人と社会の関係を強固なものとした。こうして人類は、この地球上の優生種として君臨することになった。他の生き物たちとの決定的な違いは、高度な頭脳を持ち、合理的で安全な都市に暮らしはじめたことである。いっぽうで、失ったものがある。それは自らの内にある自然であり、感性だ。身体(からだ)で感じ、身体で考え、身体をもって行動するセンスを、いま一度取りもどしてみよう。強く生きるとは何か、考えてみたい。

【セミナーコンテンツ】

- 不自然 ●生命 ●サイン ●時間 ●空間 ●美 ●想像力
- コンセプト ●プレゼンテーション ●スタイル ●かけがえのなさ

【講師略歴】1954年愛知県生まれ。愛知県立芸術大学美術学部卒。GKインダストリアルデザイン研究所(現GKデザイン機構)入所。92年GKとマツダ等との合併によるGKデザイン総研広島に移籍。専務取締役を経て現在に至る。公共交通や工業デザインに携わり、総合的視点を持って活動している。日本インダストリアルデザイナー協会理事。日本グッドデザイン賞(Gマーク)審査委員。日本デザイン機構、日本道具学会会員。

B-7 “本音”の対話でチームを変える プロジェクト現場におけるアサーティブコミュニケーションのすすめ

アイシンク株式会社
研究開発部 丸山 奈緒子

【セミナーの狙い】

プロジェクトマネジャーは、メンバーの仕事の仕方や言動に対して、ときには「注意」をしなければならないときがある。ところが言いにくいことを口にする不安から、つい私たちはロジックで説き伏せてしまいがちになる。マネジャーの本音が見えず、道理と論理で責められたメンバーは、行動を変えるところかマネジャーに対して心を閉ざす結果となってしまふ。ここではこのような距離を生む一方通行の「説得」から、メンバーと心を通わす「対話」への転換点として、「本音を話す」ことの重要性をお伝えしたい。

【セミナーコンテンツ】

- ・コミュニケーションにおける「北風と太陽」
- ・“本音”の中身とは…隠された感情に気づく
- ・自分の身近なケースを題材にした「伝える」実践

【受講をお勧めする方】

- ・メンバーとのコミュニケーションを改善したいプロジェクトマネジャー

【講師略歴】桜美林大学大学院心理学研究科健康心理学卒。アイシンク(株)にて心理学をベースにしたヒューマンスキル系講座を開発、講師として活躍している。開発した講座はストレスマネジメント、アサーション、コーチング、交流分析などで、心理学の理論的背景を持ちながらも、プロジェクトの現場で役立つ実践的なスキルを備えた講座となっており、いずれも顧客から高い評価を得ている。

B-6 オープンソースがグローバル人材を育成 プロジェクト運営、品質管理、ビジネスから学ぶ

MKTインターナショナル株式会社
代表取締役社長 赤井 誠

【セミナーの狙い】

クラウド時代を支えるオープンソースソフトウェア(OSS)にまつわる最大の誤解は、「OSSはすべてタダである」「すべてボランティアで開発している」というものです。それらの誤解を解くとともに、そのビジネスモデルと、企業でのOSS導入拡大の背景を探ります。本セミナーでは、特に企業向けに導入されているOSS製品の品質管理、販売プロセスを紹介することで、OSSプロジェクトから学べるグローバル人材の育成方法のヒントを紹介します。

【セミナーコンテンツ】

1. OSSとはどういうものか?
2. OSSのビジネスモデル
3. OSSの品質管理
4. グローバル企業の交渉術
5. OSSプロジェクトから学べるグローバル人材育成のヒントを簡単なワークショップを交えて、紹介します。

【受講をお勧めする方】

OSSやグローバル人材育成に興味あるPM・リーダー。

【講師略歴】日本ビューレット・バカード株式会社に入社後、ソフトウェア開発に従事。その後、マーケティングに移動し、日本HPをLinux No.1ベンダーに導く。2011年4月に起業し、ITビジネス、特に企業向けITビジネスの経営、事業開発およびマーケティング事業を支援。キャリア開発アドバイザー。IT業界のキャリアデザインを支援する会「世話人」。

B-8 アジャイルプロジェクトマネジメントの実際 “アジャイルプロジェクト”で迷走しないために

株式会社永和システムマネジメント
サービスプロバイディング事業部 主任 市谷 聡啓

【セミナーの狙い】

昨今の日本でも知名度を増してきたアジャイル開発。アジャイル開発を求める声は、開発者のみならず、システムの発注サイドからも高まってきています。しかし、プロジェクトを実際に進めていくには様々な留意すべき事柄があります。本セミナーでは、開発プロジェクトの事例をベースに、その実践知についてお話します。

【セミナーコンテンツ】

1. アジャイルプロジェクトの運営
2. アジャイル開発を実現する契約スキーム
3. ユーザーストーリーによって駆動するアジャイルプロジェクト

【受講をお勧めする方】

プロジェクトマネジャー、プロジェクトリーダ、情報システム部門の開発担当者

【講師略歴】SIとサービス開発、性質の異なるシステム開発の経験を経て、2011年より現職。利用者にとって価値をもたらすシステム開発を追求するべく、アジャイルな開発と向き合い続けている。システム開発を取り巻く環境の改善や推進を目的に開発コミュニティ(DevLOVE)を2008年から立上げ、主催している。

2日目(9月7日午後13:45~) セッション概要 - II

B-9 プロジェクトを成功に導くゲームストーミング 短時間で創造的な成果を得るためには? 会議やプロジェクトを創造的にするための方法論

国際大学GLOCOM
主幹研究員 野村 恭彦

【セミナーの狙い】

「仕事を効率的プロセスから創造的ゲームに変える」ことを体感し、創造的なプロジェクト推進能力を高めること

【セミナーコンテンツ】

ゲームストーミングの理論的背景、およびゲームストーミング体験

【受講をお勧めする方】

プロジェクトリーダー、マネジャー、事務局などを担う方々

【講師略歴】博士(工学)。慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程修了。富士ゼロックス株式会社に入社後、総合研究所、コーポレート戦略部を経て、社内でナレッジ・サービス事業(ナレッジ・ダイナミクス・イニシアティブ=KDI)の立上げに参画。国際大学GLOCOM主幹研究員、イノベーション行動科学プロジェクトリーダー。K.I.T. 虎ノ門大学院客員教授。

B-11 グローバル化成功への組織戦略、人材戦略の本質を考える 組織イノベーションの4つの視点による

株式会社アイ・ティ・イノベーション
代表取締役社長 林 衛

【セミナーの狙い】

組織のグローバル化成功の重点を、組織戦略、望ましい人材像、育成、考え方の観点から考察し、組織戦略と人材戦略を明らかにする。さまざまな事象を例にとり、組織や人が今後どのように変化しなければならないのかについて本質に迫る。

【セミナーコンテンツ】

- 一、着眼大局(本質を見極め、広く見据え、俊敏実行)
- 二、和魂洋才(異文化に学ぶ、強い人を創る)
- 三、単純明快(かわりやすいビジョン、戦略を示す)
- 四、不易流行(世界に通用する思考、方法論を備える)

【受講をお勧めする方】

グローバルビジネスに携わる経営者、管理者、あるいは人材育成の担当者

【講師略歴】1998年7月IT革新を専門に行うコンサルティング会社(株式会社アイ・ティ・イノベーション)を設立。現在同社代表取締役社長。名古屋工業大学非常勤講師。大連東軟信息学院客員教授。ソフトウェアエンジニアリング、プロジェクトマネジメント、ビジネスアナリシスの分野において理論および実践の両面で経験を積む。アジアを中心に、インド、中国にてグローバル人材育成教育に取り組んでいる。

B-10 OJTを機能させる仕事の伝承力 仕事の勘所にある「暗黙知」の見える化と伝え方

株式会社オイコス
メンター 依田 真門

【セミナーの狙い】

本来人には仕事で培われた素晴らしい才能、能力が備わっています。しかしそうした才能、能力もすべてが言語化できるものではありません。言語化しづらい領域の才能や能力に関してはその事を他者に伝えることは非常に難しいものです。本プログラムでは、この言語化しづらい領域の才能や、能力の存在を明らかにし、自らに内在する仕事力(暗黙知)に気づくことで、自らの価値を再発見し、自分の仕事力を後輩や、部下に伝えていくか。仕事の勘所を伝承する力について学んでいただきます。

【セミナーコンテンツ】

- ・仕事力が形式知と暗黙知から構成されていることを理解する。
- ・自分自身の仕事を分類・整理し、自分自身の仕事力の形成のメカニズムを理解する。
- ・仕事力を伝承するための考え方と方法を学ぶ。

【受講をお勧めする方】

PL、PMの方、OJTや人材育成に関心のある方

【講師略歴】早稲田大学理工学部(学士)、立教大学大学院 異文化コミュニケーション研究科(修士)卒業。20年の商社勤務の後独立。製鐵機械、金属加工設備などのプラント輸出に携わり、技術伝承の現場に数多く立ち会う。出身が技術畑である事や実践的なコミュニケーションに関心があつた事から“伝承”の問題を理論と実践の両面で追及してきた。研修では独自の方法論で受講生の学習と気づきを促す。